

デジタル・ライブラリアン講習会 ＜公共図書館コース＞のお知らせ

平成 16 年 3 月

主催：デジタル・ライブラリアン研究会 共催：三田図書館・情報学会

協力：(株)紀伊國屋書店、(財)高度映像情報センター<AVCC>

後援：ビジネス支援図書館推進協議会

第4期デジタル・ライブラリアン講習会(略称：DL講習会)開催のお知らせ

図書館をとりまく状況は前世紀末以来急速に変容しつつあり、館種を問わず、IT革命、少子・高齢化、国際化などへの対応を迫られております。しかしながら、図書館界が新たな世紀にふさわしい図書館経営のあり方を模索しているうちにも、アウトソーシングやNPO、さらにはPFIによる図書館の設置・運営など、労働市場の変化や民間活力の導入といった社会の動きはより速いスピードで進んでおります。

こうした現状に対し、私たちは、図書館を職場として働いている館長を含む現職図書館員(必ずしも司書有資格者に限らない)あるいは近い将来電子化が進んだ図書館で働こうという意欲ある方々を対象に、従来の職員研修よりも実践的でレベルの高い再教育(リカレント教育)の場が必要だと考えました。特に、これからの図書館職員に求められるのは、最新の情報技術(IT)を使いこなすスキルと経済の低成長時代に見合った経営センスであります。それらの能力と実務の経験に裏打ちされた新たな司書の育成が何より急がれます。

そこでわが国の司書養成・研修の現状に飽き足りない図書館関係者を中心に、平成13年秋、(株)紀伊國屋書店と(財)AVCCの協力も得て、これからの図書館を支える人材の育成と確保に向けたデジタル・ライブラリアン研究会(略称：DL研究会)を発足し、デジタル・ライブラリアン講習会を開催しました。

おかげさまで、たいへん好評を博し、その成果は(財)AVCCの平成13年度文部科学省補助事業報告書『IT時代の公共図書館[地域情報拠点としての付加価値サービス実現に向けて]』の第3章デジタル・ライブラリアン研究会の活動と成果、に報告したとおりです。また、以後毎年、第2期、第3期デジタル・ライブラリアン講習会、地方での短期集中コース、各種シンポジウムなどを開催しています。(第3期を修了した「受講者の声」をこの案内に一部紹介させていただいております。)

今年度はこれらの成果をもとに、内容も新たに一層充実させた研修プログラムを、別掲のように用意いたしました。

具体的に、デジタル・ライブラリアン講習会の特色は、次のような点にあります。

- 1) 定員20名という少人数で講師と受講者相互の密度の濃いコミュニケーションを実現
- 2) 講義と演習とディスカッションによるバランスのとれた実践的な研修プログラム
- 3) 「2005年の図書館像」を目標に、デジタル化、ビジネス支援、著作権など、最新のトピックを網羅
- 4) 図書館の実務と理論、政策に精通した各領域の第一人者から成る講師陣
- 5) 座学だけではない、1人1台ずつのパソコンとインターネット環境
- 6) 月曜日を中心に隔週7回で適度な期間の反復と継続性。受講期間内は、講師と受講者相互のメーリングリストを併用
- 7) 修了レポートの厳正な審査にもとづく修了証の交付

ぜひこの講習会の趣旨を御理解いただき、ご参加くださいますよう御案内申し上げます。

デジタル・ライブラリアン研究会

代表者：系賀 雅児(慶應義塾大学 文学部教授)

副代表：小林 是綱(NPO法人 地域資料デジタル化研究会理事長)

副代表：加藤 好郎(慶應義塾大学 三田メディアセンター事務長)



デジタル・ライブラリアン研究会[略称：DL研究会]発起人

逸村 裕	名古屋大学附属図書館研究開発室 助教授
大串 夏身	昭和女子大学 教授
高井 昌史	(株)紀伊國屋書店 常務取締役営業総本部長
齋藤 誠一	立川市中央図書館 調査資料係長
竹内 比呂也	千葉大学 助教授
土本 潤	岐阜県図書館 情報サービス課長
常世田 良	浦安市立中央図書館 館長
永田 治樹	筑波大学 教授
西河内 靖泰	荒川区立南千住図書館 主任主事
二村 健	明星大学人文学部 教授
長谷川 豊祐	鶴見大学図書館
原田 隆史	慶應義塾大学文学部 助教授
細野 公男	慶應義塾大学文学部 教授
丸山 修	(財)高度映像情報センター<AVCC> 普及啓発部長
山崎 博樹	国立国会図書館関西館

【50音順】

このDL講習会は、次のようなことを考えていらっしゃる図書館現職者の方々のためのものです。

- ・ 地域資料のデジタル化を考えている。
- ・ IT改革が進んでも、司書として働きたい。
- ・ 本格的なIT講習を図書館で実施することを考えている。
- ・ 財政担当者との予算折衝をもっと有利にもっていききたい。
- ・ 図書館のデジタル化、ネットワーク化の仕組みを学びたい。
- ・ インターネットを活用した新しい図書館サービスを検討している。
- ・ 司書の資格だけでなく、もっと別の資格や学位の取得をめざしたい。
- ・ 図書館でホームページを作ることになり、その担当者になってしまった。
- ・ 21世紀にふさわしい図書館のあり方を考え、他の図書館と意見交換したい。

平成15年度デジタル・ライブラリアン講習会 受講者の声

図書館や関連分野について、職場では得られない知識や最新情報をふんだんに教えていただきました。また、志ある図書館界の方々とのネットワークを築くことができたのが、一番の成果です。福島から出かけた甲斐がありました。
【福島県立図書館・阿部千春様】

駆けつけてくださる講師陣、グループで課題に取り組んだ同期生とともに、毎回時間いっぱい走り続けたような、熱っぽい講習会でした。また各地で展開されている「デジタル」なサービスが、図書館の活路を求める試行錯誤の積み重ねであることを実感しました。「自分に水をやりたい」と痛感しているベテラン図書館員の方にお勧めです。
【東京都立日比谷図書館・中山 康子様】

講師陣の多様な考え方、最新のトピック、ディスカッション、プレゼンテーション、自宅でのメールのやり取りによるグループ課題など、受講者一人一人に対し、自らの価値観の形成を鋭く迫ってくる内容だと思います。
【市川市中央図書館・叶多 泰彦様】

毎回の課題や修了レポートに追われるだけでなく、講習の中からたくさんの宿題を自分の中に持ち帰り、消化できず苦しみました。けれど、いろんな方との貴重な出会いを得、「前」へ背中を押していただいた気がします。
【三島市立図書館・中島 多美子様】

1. 講習会プログラム日程表

月日	週	テ - マ	講 師
5/17(月)	第1週	地域電子図書館の創造 (1)デジタル化がもたらす生涯学習の変容 ソーシャル・キャピタルを高める、知の還流 (2)デジタル化がもたらす図書館の変容 ハイブリッド図書館の誕生	コディネーター： 糸賀 雅児 (慶應義塾大学) 柵 高雄 (富山インターネット市民塾 事務局長) 常世田 良 (浦安市立図書館)
5/31(月)	第2週	図書館業務におけるインターネットの可能性 (3)情報検索 出版情報、サーチエンジン、ウェブサイト + 演習 (4)公共図書館における地域情報、ビジネス支援のサイト、リソース集 + 演習	大串 夏身 (昭和女子大学)
6/14(月)	第3週	IC タグが拓く新たな図書館業務 (5)IC タグの可能性と課題、出版業界の IC タグソースタギング 計画の概要とその方向性 (6)ケーススタディ	コディネーター： 小林 是綱 (山中湖情報創造館) 山崎 榮三郎 (内田洋行) 永井 祥一 (講談社) 高橋 正名 (富里市立図書館)
6/28(月)	第4週	図書館による情報発信(1) (7)魅力的な図書館 Web ページの分析・作成、地域資料の作成 (8) インターネット時代の職員のスキル レファレンス相互協力「百人力」による「知」のコラボレーション	齋藤 誠一 (立川市中央図書館) 長島 雄一郎 (磐田市立図書館)
7/12(月)	第5週	図書館による情報発信(2) (9) メールレファレンスとパスファインダーづくり (10)図書館における Web サーバの管理と Web によるレファレンス受付システム	(都立中央図書館 情報サービス課) (交渉中)
7/26(月)	第6週	図書館による情報発信(3) (11) 利用者の興味に応じた情報の提供 + 演習 (12) データベース管理システムと簡易 OPAC + 演習	(交渉中)
8/9(月)	第7週	地域のポータルサイトとしての公共図書館 <ワークショップとプレゼンテーション> (13) 地域のポータルサイトとしての公共図書館 地域に根ざした情報発信 (14) 受講者が考える図書館の「情報発信」 * 修了レポートのテーマ検討	山崎 博樹 (国立国会図書館関西館) 糸賀 雅児 (慶應義塾大学)
9/15(水)		修了レポート提出 修了レポートについては、5月31日(第2週)の講習で提出手順を説明します。 修了レポートのテーマ(この講習会の内容に関わるものであれば、原則としてテーマ設定は自由)の提出期限は8月8日(第7週の前日)で、 レポートの提出期限は9月15日(水) となります。	

テーマ・講師に関しましては、多少の変更があるかもしれませんので、ご了承願います。

《場 所》 紀伊國屋書店 本社(東京・恵比寿)7F セミナールーム〔全日程共通〕

《時間構成》 前半の講義：午後1時30分～2時45分 休憩：15分

後半の講義：午後3時00分～4時15分 休憩：5分

フリーディスカッション：午後4時20分～5時20分〔全日程共通〕

《補 講》 希望者が多い場合には、以下の補講(2種類 計4時間)を開催予定です。

1. 「HTMLの書き方」を第2、3、4週の本講義前(各約1時間)

2. 「オンラインDBの運用活用方法+プリントサービス」を第5週の本講義前(約1時間)

2. 講習会概要

受講料：45,000円

各コースのコマごと（1日2コマ×7日＝14コマ）の受講は受けません。

計14コマ通じての受講の受けとなります。

支払い期日：私費の場合・・・5月17日<現金>、公費の場合・・・請求書を5月17日の講習会初日にお渡ししますので、6月30日までに指定銀行口座へのお振込をお願いします。

定員：20名

受講対象者：司書資格を持っているか、または平成16年3月末時点で公立図書館の実務経験（正規職員、非常勤、嘱託、臨時、など）が2年以上ある方。年齢は問いませんが、公立図書館の現職者を優先します。

- 受講要件：1) 地域電子図書館の実現に関心をもっていること。
2) メールアドレスをDL講習会の開講日までに所有し（メールアドレスは、自宅もしくは勤務先どちらでも結構ですが、**個人管理で運用**しているものに限らせていただきます）、電子メールの送受信ができること。
3) 次の日本語文章を8分以内でワープロ文書に入力変換できる程度のキーボード操作スキルをもっていること。
4) 講習ではHTMLタグを使ってWebページを作成できることを前提とした講義も行われます。作成した経験のない方は、受講前に自習用CD-Rをお送りしますのであらかじめ自習してください。また、補講も行われます。

「リクエストされた資料が雑誌論文のコピーであった場合には、物理的な配送だけではなくインターネット経由で送信を行う場合がある。たとえばCICの参加館間ではArielを用いた資料の電送が行われている。ArielとはThe Research Libraries Group Inc. (RLG)が開発したネットワーク経由で電子的に送受信するためのソフトウェアである。」

7週14回すべての講習を受講し、提出されたレポートの審査に合格した受講者には修了証を交付します。

受講参加を申し込むにあたって、このDL講習会もしくはDL研究会に対してのご意見・ご感想をご記入願います。

3. 講習会申込みについて

下記の申込書に必要事項を記入の上、EメールもしくはFAXでお申込み下さい。

なお、このDL講習会の案内書、昨年度の受講風景等は、

株紀伊國屋書店のホームページ (http://www.kinokuniya.co.jp/03f/es/dl_index.htm) に掲載されています。

デジタル・ライブラリアン研究会事務局 行

Fax : 03 - 5469 - 5951

E-mail : dla@slis.keio.ac.jp

Tel : 03 - 5469 - 5988

その他、このDL講習会に関するお問い合わせも左記までお願いします。

全項目について、もれなくご記入ください。

申込み日： 月 日

お名前		男・女	20歳代・30歳代・40歳代・50歳代
所属			
住所	〒 (自宅 ・ 職場)		
TEL		FAX	
メールアドレス			
補講	1. 「HTMLの書き方」	希望する ・ 希望しない	
	2. 「各種オンラインDBの運用活用方法他」	希望する ・ 希望しない	
<ご意見・ご要望 記入欄>			

申込締切： 4月30日(金)

申込みが定員の20名を超過した場合は、申込書の記入内容をもとに、同一館に偏らないようにするなどの配慮をしたうえで、事務局で受講者を決めさせていただきます。申込先着順ではありませんので、予めご了承ください。

受講の可否につきましては、5月7日(金)頃に、こちらからメールでご連絡致します。